

オーストラリアにおける教師養成

著者	NEUSTUPNY J. V.
雑誌名	日本研究・京都会議 KYOTO CONFERENCE ON JAPANESE STUDIES 1994 ?
巻	.non01-01
ページ	73-74
発行年	1996-03-25
その他のタイトル	Osutoraria ni okeru kyoshi yosei
URL	http://doi.org/10.15055/00003444

オーストラリアにおける教師養成

J. V. NEUSTUPNÝ (大阪大学)

日本語教師の役割は、歴史的変遷の過程でいつも同じ価値を保っているわけではない。近代パラダイムに属する教師は、教室でのプロセスの主役であり、学習者のほとんど唯一のモデルでもある。これに対して、日本語教育の新しいパラダイムにおける教師の役割は、むしろマネージャーの立場にちかい。私たちが日本語教師養成を計画的に展開したいを思うなら、日本語教師の歴史的制約の変遷を十分意識する必要がある。

オーストラリアの日本語教育は、新しいパラダイムが深く浸透しているので、日本語教師の変わりつつある役割を考えるのにいいデータを提供してくれる。オーストラリアの日本語教育の特徴の中につぎのものがあげられる：

国際社会の中で、語学学習の量が大きくなった。

日本語教育が大学以外のレベルにも広がっている。

日本語の学習が言語だけを取りあつかっているのではなく、コミュニケーションや社会文化的インターアクションも対象にしようとしている。

自律学習の重要性が、学習者と教師によって認められている。

学習者の習得は、言語の実際使用にもよる。

習得のための場面は、教室場面以外にも広がっているし、教育過程の参加者が多様化している。

教師の社会体系に対する意識が強くなり、自分の社会的役割を感じるようになっていく。

これらの特徴のために、オーストラリアでの教師の数も、またその需要もいちじるしく増えてきた。高等教育レベルにおける成長もはげしいが、小、中、高校のレベルでの教師の増加がもっとも目立っている。また狭い意味での日本語教師だけではなく、同時に日本語によるコミュニケーションや社会文化（いわゆる「日本文化」）を教えられる教師の必要性も感じられている。オーストラリアで自律学習（学習ストラテジー）の理論が広範に紹介されつつあるので、これも日本語教師のあり方と関係を持たざるをえない。また、教師が教室だけで説明と練習のアクティビティーを通して日本語を教えるものだという考え方も弱くなってきたと言える。

しかし、オーストラリアの日本語教育が完全にポスト近代化しているわけでもないし、それを内外で考える際、すくなくともつぎの問題を考慮する必要があると思われる。

「教師」は、必ずしも一つのカテゴリーではない。

実は、私たちが現在「教師」よりは「日本語教育の参加者」ということばを使うことが正しいと思われる。教師の他に、TA、種々の協力者、日本人のコミュニティーなどがあり、また大学、

高校、中学校、小学校、幼稚園、成人教育などのレベルがある。それぞれの日本語能力や訓練の種類が当然異なるべきであり、私たちはすべての教師を、大学レベルの教員のように考えてはならない。

教師が学習者の主なモデルだという意識。

現代の日本語教育では、このようなことはあるべきではない。「教師＝モデル」と教える場合、学習者にどのように多様なモデルを与えるかということが忘れられ、一方的に教師の日本語能力だけが問題にされがちである。(もちろん、教師の能力が高ければ高い程いいが。)

教師としては、日本人がいいという態度。

このような態度が一部の人にある。しかし、教師を学習過程のマネージャーとして考えるなら、ネイティブ・スピーカーでなくてもかまわない。日本人の場合にも、オーストラリア人の場合にも、まず、オーストラリアの教育や日本語教育の条件をよく理解することと、教師以外の参加者と教室以外の場を準備できる人であれば、それでいい。

教師は、上からの命令で動いている。

教師自身が積極的に日本語教育に関する計画や言語管理 (LANGUAGE MANAGEMENT) に加わるべきである。

教師養成は、教育学部で行われている。

オーストラリアの教師は、教育学部を卒業していない場合は、他の学部を卒業してから一年間の教育学部のコースをとらなければならない。これは結構なことである。しかし、これらのコースは、多くの場合、教育一般について、語学教育について教え、また、語学教育の実技をさせるが、日本語について、そして、日本語特有の教授法にはほとんどふれない。また、多くの場合、「教育」だけ、そして「言語」だけを対象にしているところにも問題がある。

[参考文献]

J. V. ニュースブニー「日本語教師養成と日本語教育能力検定試験」上野田鶴子編『日本語教育の現状と課題』(講座日本語と日本語教育16) 明治書院1991年